

## 社会主義に不可欠な民主主義

こう論じるさい、セムコフスキーは、奇行は社会主義者や民主主義者の義務に違反することにはならない、ということをおぼしている。セムコフスキーが、手あたりしだいの妻に、どこの御主人もお宅のよりましですと説きつけはじめるとしても、だれも、それを民主主義者の義務に違反するとみとめるものはいない。せいぜい言われることは、大きな党となると大変な奇人がいるのをまぬかれない、ということである！ しかし、離婚の自由を否定し、たとえば逃げていく妻を裁判所か、警察か、教会に訴えるような人を、セムコフスキーが弁護し、これを民主主義者と呼ぼうと思いつくなら、セムコフスキーの同僚である在外書記局員の大多数でさえ——彼らがどんなに悪い社会主義者であろうとも——、セムコフスキーと連帯行動をとることはやめるだろうと、われわれは確信する！

セムコフスキーもペ・キエフスキーも、離婚のことに「ちょっと口をだして」、問題を理解していないことを暴露し、問題の核心を避けた。離婚の権利は、例外なく**すべての**民主主義的権利と同じように、資本主義のもとでは、実現することが困難であり、条件的であり、制限されており、せまく形式的なものである。しかし、それにもかかわらず、ちゃんとした社会民主主義者ならだれても、この権利を否定する人を社会主義者とみなさないのはもとより、民主主義者ともみなさないであろう。ここが肝心の点である、およそ「民主主義」とは、資本主義のもとではきわめてまれに、きわめて条件的にしか実現されない「権利」を宣言することであり、それを実現することである。しかし、このように宣言しなければ、いまずぐこの権利のためにたたかわなければ、このような闘争を趣旨として大衆を教育しなければ、社会主義は**不可能**である。

このことを理解しないのでペ・キエフスキーは、その論文のなかで、彼がとくにとりあげたテーマにかんする主要な問題、すなわち、われわれ社会民主主義者は**どのようにして**民族的抑圧をなくするかという問題、を見のがしている。ペ・キエフスキーは、どのようにして世界は「血にまみれるか」（これは問題にまったく無関係だが）などという文句でお茶をにごしている。実質上、あとにのこるのはただ一つ、社会主義革命がすべてを解決する！あるいは、ペ・キエフスキーの見解の支特者たちがときどき言っているように、自決は、資本主義のもとでは不可能であり、社会主義のもとではよけいなものである、ということだけである。

これは、理論的にはばかばかしく、実践的＝政治的には排外主義的な見解である。この見解は、民主主義の意義を理解していないことである。社会主義は、つぎの二つの意味で、民主主義がなければ不可能である。(一)プロレタリアートは、民主主義のための闘争によって社会主義革命の準備をしていなければ、この革命を遂行することができない。(二)勝利をしめた社会主義は、民主主義が完全に実現しなければ、自分の勝利を維持し、人類を国家の死滅へ導くことができない。だから、自決は社会主義のもとではよけいなものだというのは、社会主義のもとでは民主主義はよけいなものだというのと同様なナンセンスであり、しまつにおえない混乱である。

自決は、資本主義のもとでは、民主主義一般**以上**に不可能ではなく、社会主義のもとでは民主主義一般と**おなじほど**よけいなものである。

経済的変革は、あらゆる政治的抑圧をなくするのに必要な前提条件をつくりだす。だからこそ、**どのようにして**民族的抑圧をなくするかが問題となっているときに経済的変革を引合いにだしてお茶をにごすことは、非論理的であり、まちがいである。経済的変革がなければ、民族的抑圧をなくすることはできない。それは争う余地がない。しかし、これにとどまるのは、こっけいで、あわれむべき帝国主義的「経済主義」に陥ることを意味している。

民族の**同権**を実行し、あらゆる民族の同「権」を宣言し、定式化し、実現しなければならぬ。ペ・キエフスキーただひとりのをぞいて、**すべてのものが**、これに同意している。しかし、ここに人々の見のがしている問題が生じる、——自分の民族国家をつくる**権利**の否定は同権の否定ではないか、という問題がそれである。

もちろん、それは否定である。そして、一貫した民主主義、**すなわち**社会主義的民主主義は、この権利を宣言し、定式化し、実現する。そしてこの権利がなければ、諸民族の完全に自発的な接近と融合への道はないのである。

第 23 卷 P76~77 『マルクス主義の戯画と「帝国主義的経済主義」とについて』

1916 年 8 月～10 月に執筆

## コメント

ここが肝心の点である、およそ「民主主義」とは、資本主義のもとではきわめてまれに、きわめて条件的にしか実現されない「権利」を宣言することであり、それを実現することである。しかし、このように宣言しなければ、いますぐこの権利のためにたたかわなければ、このような闘争を趣旨として大衆を教育しなければ、社会主義は不可能である。

社会主義は、つぎの二つの意味で、民主主義がなければ不可能である。(一) プロレタリアートは、民主主義のための闘争によって社会主義革命の準備をしていなければ、この革命を遂行することができない。(二) 勝利をしめた社会主義は、民主主義が完全に実現しなければ、自分の勝利を維持し、人類を国家の死滅へ導くことができない。